

ホームページへの掲載		
済	3月15日	掲載予定

岐 阜 県 立 可 児 工 業 高 等 学 校

学 校 長 山 田 豊 和

学 校 住 所 可 児 市 中 恵 土 2358 の 1 電 話 0574-62-1185

1 会議の名称 可児工業高等学校学校評議員会 (第2回)

2 会議の構成 委 員 一枚田キヨ江 会社役員(欠席)
千賀 昂 可児市中恵土自治会連合会会長
藤田 幸夫 (株)甲山製作所社長
水野 正司 可児市下恵土自治会連合会会長
山口 清江 可児市青少年育成アドバイザー
(委員名五十音順)

学 校 側 山 田 豊 和 校長
高 木 良 昭 教頭
藤 井 健 二 事務長
兼 松 竹 司 教諭(生徒指導部長)
広 瀬 和 生 教諭(教務部)
水 野 茂 之 教諭(進路指導部)
酒 井 眞 司 教諭(工業部)

3 会議の目的 学校が保護者や地域住民の信頼と期待に応えるためには、地域に開かれた学校づくりの推進が重要である。学校は家庭や地域にその運営方針を明らかにし、その理解と協力を得るとともに、学校外の有識者等の参加を得て、学校運営に対する幅広い意見を集約し、本校教育の一層の改善・充実を目指す。

4 会議の開催 平成24年2月20日(月) 13:30~15:30 可児工業高等学校校長室
評議員4人と学校側7人が出席
会の内容

- ・平成23年度の報告
- ・本校職員に望むこと
- ・来年度への提言
- ・1年間の評議員を振り返って
- ・次年度の評議員の推薦

5 会議の概要

(1) 平成23年度の報告

①平成23年度の進路状況について資料をもとに説明した。

- ・就職率が実質100%であったこと、センター試験を課す岐阜大学に1名が合格したことについては高い評価を得た。

②平成23年度の生徒指導関係について説明した。

- ・遅刻数が昨年より激減しており、生徒の落ち着きを示している。

③平成23年度の成果や実績について

以下のような主な活動について説明した。

学校

- ・学び直しで基礎学力の定着を図った。
- ・エアコンを整備し、教育環境が向上し、暑い時期でも落ち着いた態度で授業を受けられるようになった。

地域連携

- ・中部中との交流
- ・地区公民館での活動
- ・可児市産業フェア（11月）、環境フェスタ（2月）への参加
- ・可児川一斉清掃参加（2月）

工業部関係

- ・ものづくりコンテスト東海大会出場決定（12月）
- ・ジャパンマイコンカーラリー
東海大会で上位独占、全国大会（札幌）で特別賞受賞

部活関係

- ・NHK放送コンクール全国大会出場

意見 1 可児工業高校が地域のイベントに参加していただき、イベントも盛り上がり、感謝している。ただし、新聞等では御嵩町との交流は大きく取り上げられているが、お膝元の可児市との交流があまり取り上げられていないのは残念である

回答 地域の行事やイベントに参加することで、生徒の社会性の向上、コミュニケーション能力の向上に効果があり、学校のPRにもなるので、できる限り参加したいと。
御嵩町の場合は年度初めに提携に調印したこともあり、町自体が広報活動に熱心であることも関係している。来年度以降は可児市との交流を強化していきたいと考えている。また、可児市の協力もお願いしたい。

意見 2 地元の高校として、誇りに思える高校になってきた。いろいろな面で活躍して、さらに名前を高めてほしい。

（2）本校への意見や提言

特に具体的なテーマは示さず、今年度の本校の教育活動全般について、それぞれの評議員からご意見や感想を聞き、質問や提言については、各担当あるいは管理職から回答した。

意見 3 特色化選抜が今年で最後になったが、これで自己アピールする機会が無くなるのではないかと。学業成績だけで判断するのではなく、部活動などの活躍を加味する方式として特色化選抜は意義があった。

回答 25年度以降の入学検査はまだ未定であるが、特色化選抜の良かったところは引き継がれていくと思う。どのような選抜方法になっても、可児工業高校の存在意義をますます

す高め、多くの中学生があこがれる高校にしてきたい。

意見 4 授業や実習を何回か見学させていただいたが、今回の数学の授業はわかりやすかったし、もう少し見ていたかったぐらいだ。

意見 5 本校の生徒は地域の行事、例えば体験広場などでは小中生にうまく対応しているように思う。技術を身につけているので、それをうまく活かしているようだ。学校がよく指導していると感じた。

回答 まだまだ積極性が少なく、対応が不十分であるので、さらに良い評価がいただけるよう指導をしていきたい。

来年度はオーストラリアの高校とのインターネットを活用した交流を計画している。このような機会をとらえて国際交流の一歩としたい。

また、来年度は「カンサット」の研究にも着手する予定で、高校生でもこれだけのことはできると広くアピールしたい。

6 会議のまとめ

① 今回は1年間の振り返る良い機会になった。おおむねお褒めの言葉を多くいただけたが、その中にも来年度の方向性を示唆するようなご意見もあり、有意義なものになった。

② 地元の町内会の方は校外における生徒の行動を良くご覧になっているし、学校の活動にも関心をもっておられる。地域の高校として、地域で愛されるためには、付け焼き刃ではなく、地道な実践が必要であると感じた。

③ 評議員の中には工業高校のことを全く知らない方がいたが、その方は初めて見る工業高校の授業や施設、生徒の様子を非常に好意的に見られていた。そして、工業高校の良さを多くの場所でアピールしたいとも言ってもらえた。

今まで続けてきた地域との連携、中学校との交流を通じて、さらに工業高校の良さを伝えていかなければならないと感じた。